

幕末明治の写真師列伝 第九回 宮下欽 その三十一

「右相仕舞、午後第二時半頃宮下帰ル、○同第一時半頃仁助殿来ル、鶏卵十・鵝（鶯鳥）之玉子一ツ為土産到来ス、菓子・茶出ス、無程帰ル、○同第四時頃宮下親類之者三人来ル、菓子・茶出ス、一人宛之紙取写真三枚、双眼之写真致ス、同五時頃帰ル、○同第六時頃西田耕蔵殿、西洋人一リ道ニ而御出、菓子・茶出ス、無程帰リ、○同第六時過事務局方左之通申来ル、」

[博覧会事務局からの書簡および返信書写]

申談義之候間、明後十七日朝第十字当局へ可罷出候也、

三月十五日

博覧会事務局

横山松三郎へ

右ニ付左之通返信遣ス、

御用之趣委細奉畏候、以上、

月日

上書 博覧会事務局 横山松三郎

御役人御中

「三月十六日 薄照

一、第十一時過、過日牧野氏へ貸置候富岡之写真三枚取寄る、○午後第一時宮下、陸軍兵学寮ニ而出来可致はりこ（張り子）、如何之模様哉見ニ参り候所、下張出来致し居、上張今日中ニハ出来上り候旨経師申候、夫方外務省へ行、昨日註文有之候御廓内景色四ツ立判写真、前々ニ写置候分少々変色之分も取受四拾六枚、富岡之四ツ立判拾八枚持参致し候所、休日ニ付註文有之候大野氏 [出] 仕無之ニ付、虎御門外今入町大野氏下宿へ参り候所、外出留主ニ付留主居之者へ写真風呂敷之ま、頼置、第五時半頃帰ル、○第十 [二] 時過蛭子氏御出、無程御帰リ、○善太郎終日来リ、細工所之普請致ス、○午後第四時半頃笹森氏来ル、夕飯出ス、○浅草湯島氏同第四時過来リ、日光より之書状持参致し呉、即刻帰ル、○同第八時青山氏方写真箱持参、ピント不合候様ニ付、先生ニ御覽相願度旨、同氏方金米糖（金平糖）箱一ツ到来ス、且明日出写致し度間、暗室借用致し度旨申来り候間、当方ニ而も明日方陸軍省之写真出写可致旨ニ付、当分御用立申間敷旨申断る、併不参候ハ、御用立可申候間、明朝御人御遣し可被成与挨拶致し遣ス、○町田氏方使来リ、昨年上方行之節、旅費取替有之候間、返済致し候旨催促有之候間、御上方旅費更ニ御下ケ金無之候間致し兼候旨申断る、」

「三月十七日 晴風有

一、第八時青山氏方暗室借用致し度旨申来候へ共、当方ニ而も今日方陸軍兵学寮へ先生御出被遊候ニ付、用立兼候旨申断る、○第九時頃宮下兵学寮へ行、今日風立候故写真ニ差支候間、今日昼後、右機械之分計運ひ置、明日方写し度旨申候所、承知之旨挨拶有之、夫方事務局へ行、御用之旨承り候所、小野氏被申候二者兼而会計方方受取（渡し）過之金子、月々五拾兩ツ、返済致し度旨、嘆願書返（受取）差出置候所、何分左様之事ハ不相成、しかし月々百円ツ、上納致し候ハ、局長へ取なし致し可申旨、もし百円ツ、上納難出来候ハ、明日当人罷出候様被申渡、又夫方外務省へ行候処、御廓内之景色拾五枚・富岡之景色七枚御買上ケ相成、明日迄ニ立立可差出旨被仰渡、午後第三時頃帰ル、夫方今日註文有之御廓内・富岡之写真仕立致し、上方辺之景色と一同ニ、同第六時頃宮下、大野氏下宿へ持参致し候所、上方之景色九枚御買上ニ可相成旨被仰渡、是又明日仕立可差出旨被仰渡、且御

同人方宮下へ人力代として金二朱ト拾銭被下、同第十時頃帰ル、[○] 同第十二時おかぬ来ル、写真致し遣シ、同（午後）第二時頃帰ル、○善太郎終日来リ、細工所之普請致ス、」

「三月十八日 晴天風有

一、第八時（註：横に「七」と訂正の書き入れ有り）前人足来リ、暗室兵学寮へ遣ス、同第八時過先生兵学寮へ御出、午後第二時御帰リ、種板九枚御写真取被遊候、○宮下（註：宮下の後「第過武助一同」とあるがこれには線が引かれています）九時過事務局へ行、昨日被仰答候得共、何分百円ツ、ハ月々上納無（難）出来候間、日ニ二円ツ、之割合を以、月末々々ニ上納致し度、右ニ而御執成（註：とりなし）相願度旨申候得共、承知無之ニ付ニ付、（註：原文では「ニ付」が二度書きされている）又候事務局へ以前之通ニ而何卒相願度旨申出候へ共御承知無之、明日先生ニ御出頭被遊候呉々被仰渡、又方外務省へ行、昨夜註文之上方景色九枚仕立差出ス、御下ケ之書面、左之通認差出ス、」

[外務省宛受領書書写]

記

一、金八円七拾五銭 御廓内景色四ツ立判拾四枚

一、金四円三拾二（七）銭五厘 富岡同七枚

一、金五円六拾二銭五厘 上方同九枚

〆金拾八円七拾五銭

右之通代金御下ケ被成下置、正奉請候、以上、

明治六年三月

横山松三郎

代 宮下 欽 印

外務省庶務御中

然ル処、午後第三時過ニ相成候故、明日御下ケ金可有之候間、今日ハ引取候様被仰渡、同第五時頃帰ル、○武助第九時頃私用ニ而外出シ、第十二時頃帰ル、同人又時時過私用ニ而外出シ、午後第七時頃帰ル、○彦太郎・竹藏・大山第十時私用ニ而外出シ、大山午後第二時頃帰ル、竹藏六時過帰ル、彦太郎同第八時頃帰ル、○蛭子氏午後第二時頃御出、同第五時過帰リ、其節茶出ス、○楠山氏第十二時前菓子二折持参ニ而来ル、昼飯出ス、午後第二時頃帰ル、○事務局左之通申来ル、

[博覧会事務局からの書簡および返信書写]

申談義之候間、明十九日朝第十字当人可罷出候也、

三月十八日

博覧会事務局

横山松三郎へ

右ニ付例之通奉畏候旨返書遣ス、

○今日ハ例之通休日ニ付 [先生方] 一同へ牛鍋ニ而御酒被下、○善太郎終日来リ、細工所之普請致ス、

(※「方」は平仮名の「よ」と「り」の合字)

(森重和雄)